

停電時の火気の取り扱いについて

1．石油ストーブについて

石油ストーブを閉めきった場所（部屋、テント内）で換気を行わず長時間使用すると一酸化炭素中毒（ ）になります。定期的に換気をし、十分に注意をして使用してください。また、衣類、毛布などの可燃物が接触することによる火災にも注意してください。

2．七輪について

七輪で練炭等を使用する際には、閉めきった場所（部屋、テント内）で使用すると、一酸化炭素が発生し、一酸化炭素中毒になりますので、定期的に換気をし、十分に注意をして使用してください。また、衣類、毛布などの可燃物が接触することによる火災にも注意してください。

3．カセットこんろについて

(1)カセットこんろ用ボンベ（カセットボンベ）は、カセットこんろ本体に正しく装着してください。カセットボンベの切り欠き（凹部）部とカセットこんろの容器受けガイド（凸部）をしっかりと合わせてください。

(2)カセットこんろを覆うような大きな鍋や鉄板は、カセットボンベが加熱されて爆発することがありますので使用しないでください。

(3)カセットこんろを閉めきった場所（部屋、テント内）で換気を行わず長時間使用すると一酸化炭素中毒になる恐れがあります。定期的に換気をして、十分に注意をして使用してください。

4．携帯発電機について

携帯発電機の運転中に出る排ガスには、一酸化炭素が多く含まれています。

(1)携帯発電機は、屋内で絶対に使用しないでください。

(2)屋外でも換気が悪い場所での使用は、一酸化炭素中毒になる恐れがありますので、換気の良い場所で使用してください。

（ ）一酸化炭素(CO)中毒とは

ガス、石油や炭などを燃焼したとき、新鮮な空気が不足すると不完全燃焼を起こし、一酸化炭素(CO)が発生します。一酸化炭素(CO)は、無色・無臭のため気がつきにくく、また、血液中のヘモグロビンと結合しやすいため、微量でも血液中に取り込まれると血液の酸素運搬能力が低下し、死に至ることがあり、非常に危険です。

災害時の製品事故の防止について

～ 電気製品の火災事故防止 ～

1．地震を感じたときの対応について

- (1)使用中の電気製品のスイッチを必ず切ってください。
- (2)アイロンやドライヤーなどの熱器具は、火事の原因になりやすいので素早くプラグをコンセントから抜いてください。

2．家の外へ避難するときの対応について

電気の消し忘れによる事故を防ぐため、ブレーカーを必ず「切」にしてください。

3．停電復旧時の対応について

電気製品の外観、電源コード、プラグ、テーブルタップ、延長コードに異常があるもの、水に浸かったものや強い衝撃を受けたものを使用するときは、必ずメーカーや販売店の点検・修理を受けてください。

- (1)停電復旧前に分電盤のブレーカーを全て切り、全ての電気製品のプラグをコンセントから抜いてください。
- (2)電気製品の外観に異常がないか確認してください。
- (3)電源コード、プラグ、テーブルタップ、延長コードに傷や折れがないか、また、コードが家具や荷物に踏まれていないかを確認してください。
- (4)水に浸かった電気製品は使用しないでください。
- (5)落下や転倒など強い衝撃を受けた電気製品は使用しないでください。
- (6)ブレーカーを入れ、必要な電気製品のプラグをコンセントに差し、様子をみながら使用してください。発煙や異臭を感じた場合は、直ちにブレーカーを切り、製品の使用をやめてください。

4．計画停電時の対応について

- (1)ブレーカーを切り、電気製品のプラグをコンセントから抜いてください。
- (2)地震の影響により、電気製品の外観等に異常がないかを確認してください。
- (3)外観等に異常が認められたときは、必ずメーカーや販売店の点検・修理を受けてください。